



GLOBAL MAPPING NewsLetter 74

ヨーロッパ位置フレームワークが運用前の開始を予定より 8 ヶ月前倒しで発表

アンティ・ジャコブソン
テクニカル・コーディネーター
ヨーロッパ位置フレームワーク・プロジェクト



2014 年 6 月 18 日

試験的利用がヨーロッパ位置フレームワーク (European Location Framework) の力を初めて明らかにした

本日 (2014 年 6 月 18 日)、2014 年 INSPIRE 会議において開始された新しい試験的利用により、空間データの利用者は初めてヨーロッパ位置フレームワークの力を体験することができます。

デンマークにおけるこの行事の参加者は、予定より 8 ヶ月前倒しで公開された運用前のサービスを実際に利用する初めての体験者となりました。これは、www.locationframework.eu 経由でアクセスすることにより 5 カ国の国別データサービスに接続し、また、EuroGeographics 経由で 45 の国家地図作成・地籍当局により提供される汎ヨーロッパの地理情報も含まれます。

ヨーロッパ位置フレームワークプロジェクト・コンソーシアムを代表し、テクニカル・コーディネーターのアンティ・ジャコブソンは、「私達は 8 ヶ月前倒しで試験的利用を発表することに感激しています。プラットフォームに接続するには、Oskari または ArcGIS Online を経由する等、多くの方法があり、

ビジネスでの利用者とアプリケーション開発者の両者が、彼らのための利便性を経験するためにサービスを試みるよう希望します。」と述べました。

最初のアプリケーションには、チェコ共和国、フィンランド、ノルウェイ、スペインとスウェーデンの国別データサービスとあわせて GeoLocator 地理参照サービスと GeoProduct Finder が含まれます。これは単なるスタートです。(地理的範囲と詳細レベルの点で) サービス機能とデータ内容は、ヨーロッパ位置フレームワークがヨーロッパの一つの参照地理情報源を提供することを保証するために、引き続き整備されます。

ヨーロッパ位置フレームは、位置と地物に結び付けられた情報を分析・理解するための権威のある、互換性を持つ、国境を越えた地理空間参照データを配布する技術基盤です。これは、運用可能な国境を越えた汎ヨーロッパのサービスを配布するための実際の手段を提供し、INSPIRE を次の段階へと進めます。

3 年にわたるこのプロジェクトは 2013 年 3 月に開始し、欧州委員会 (EC) の競争力・イノベーション・フレームワーク計画 (Competitiveness & Innovation framework Programme-CIP) と 情報通信技術政策支援計画 (Information and Communication Technologies Policy Support Programme-ICT PSP) が共同で資金を提供しています。このコンソーシアムは地図・地籍当局、アプリケーション開発者、中小企業 (SMEs)、大学、EuroGeographics と Open Geospatial Consortium により構成されています。

地球地図エルサルバドル第 2 版

エマ・フローレス 建築士、領土システム課長
フランシスコ・ベニテス 技術士、基盤空間データコーディネーター
地理研究・国家地籍局
エルサルバドル国家登記センター



気候変動、森林伐採や水不足等の地球環境問題は時間の経過とともに益々重要になり、この重要性に地球規模で関心を持ち解決法を見出すためには共通の感覚や現代の技術、知識を利用することが必要とされます。そのためエルサルバドル国家登記センターは、解決法を積極的に求め、地球地図国際運営委員会 (ISCGM) と協働する地球地図等のようなプロジェクトに参加することを決定しました。

エルサルバドルは面積が約 21,000km² の国で、絶えず地震とハリケーンの危険にさらされ、多くの環境劣化を抱える地域に位置していますが、このようなプロジェクトへの参加は緊急事態に必要とされる情報源を作成し、正しい政策決定を行うために急務となっています。

私達の組織は非常に多様な地理情報を持ち、我が国の地理関係の問題に確実性と信頼性を与える国家レベルでの責任を有しています。そのため、地球地図のための情報を入手する作業では、ISCGM の地球地図仕様の規定に従い、私達自身の地理情報の知識を豊かにした国際標準に沿ってこれらのデータを抽出しました。

私達は、地籍や登記等のプロジェクトについてのバックグラウンドを持っているため地理情報データをより正確にすることができ、また、関連の正確な情報を持って参加することができました。

地球地図第 2 版のベクター・データは縮尺 100 万分 1 で抽出した 4 つの主題レイヤをもとにしています。

1. 交通網
 - 空港施設
 - 道路
 - 鉄道
2. 行政界：
 - 海岸線
 - 国境線
 - 行政区
3. 水系：
 - 河川
 - 陸水
4. 人口集中域
 - 市街地区
 - 様々な人口

また、Corine 土地被覆図等、私達独自の主題レイヤや Google Earth 等のその他のソースを用い全球土地被覆図 (GLCNMO2) や樹木被覆率 (PTC2) のための情報を検証し、GLCMNO2 と PTC2 の仕様や手順と比較して、データの検討・更新も行うよう ISCGM に提供しました。

新しい技術の流れを活用するために、私達は現在クラウドの地理データの課題を調査するとともに空間データ基盤イニシアティブのような地域のプロジェクトを推進し、さらに USGS、GeoSUR や PAIGH と協働で行うメソアメリカ統合図 (Mesoamerican Integration Map) 等のワークショップに参加し、非常に成果をあげています。地球規模の問題には境界が無く、この視点からこれらに取り組むことが必要とされるため、このようなことが当地域におけるこの種の国際協力を続けるきっかけとなるよう希望します。

米国が新しい地球地図データを配布

ジェイ・ドネリー
米国ナショナルアトラス編集長
米国地質調査所



米国地質調査所 (USGS) は、設立当初から地球地図に参加しています。今回、地球地図第 2.2 版に対応する米国の新しい数値地図データの完成をお知らせすることを嬉しく思います。次の表に記載されるすべてのベクターデータが利用可能となりました。

レイヤ	地物名	地物タイプ
境界線	河岸線	エッジ
	行政域	面
	行政域線	エッジ
水系	運河 *	エッジ
	内水	面
	水路	エッジ
人口集中域	市街地 *	ポイント
交通網	空港 *	ポイント
	フェリールート *	エッジ
	港 *	ポイント
	鉄道	エッジ
	鉄道の駅 *	ポイント
	道路	エッジ

* オプションの地物

これらのベクターレイヤに加え、解像度 100m の米国の地球地図標高データセットも提供しています。

すべてのベクターデータセットは様々な大縮尺の地図データ源を用いて編集され、縮尺 100 万分 1 に総描化されました。また、これらのベクターデータセットはレイヤ間の地物が正しく配置されるよう、

垂直方向にも統合されています。作業の際に、ベクターデータレイヤには 2 度のチェックが施されました。まず、データを縮尺で編集、表現するために一貫性のあるアプローチがとれるよう、エッジと面の総描化の精査を行いました。2 番目の作成上の精査では、地図レイヤ間での垂直方向の統合の品質をチェックし、改善しました。重複をなくすために、エッジの位置は必要に応じて調整されました。線の地物はできる限り 300m 間隔で離されましたが、各々の真の位置から 500m 以内に収められました。また、アトラス・オブ・カナダの職員と協働し、米国の北の国境沿いにある水系と交通網のエッジ・フィーチャーを水平方向に調和させるために注意が払われました。メキシコと米国の国境に沿った道路と鉄道は画像を用いて中央でそろえられました。

私達の最新の地球地図データは ISCGM 事務局と米国ナショナルアトラス (<http://nationalatlas.gov/help/global-map-faq.html>) の両方から公開されています。しかし、USGS は 2014 年 9 月 30 日にナショナルアトラスを終了することを決定し、その時点でナショナルマップ・プログラム (National Map program) (<http://nationalmap.gov>) が地球地図データの配布を開始します。地球地図データのためのウェブマップ・サービス (Web Map Service) とウェブフィーチャー・サービス (Web Feature Service) が 2015 年のナショナルマップ・プログラムのなかで整備されます。

2013 年に、5 年間で地球地図データを更新するための支援として計画された複数年の研究開発プロジェクトを開始しました。この作業成果によって更新を必要とする地域を特定し、これらの地域の大縮尺の地理空間フレームワークデータを自動的に地球地図の縮尺にまで総描化することが出来るようになります。

事務局から

ISCGM 新事務局長の挨拶



ISCGM 新事務局長の永山透です。ISCGM 規約第 22 条第 2 項により 2014 年 4 月にポール・チュン委員長から任命されました。2005 年から 2008 年に勤務した後、再び ISCGM 事務局に戻ってきたことを非常に嬉しく思います。

前任の福島芳和氏に心から感謝いたします。福島氏は 7 年間という事務局長として最長の任期にわたり地球地図プロジェクトの発展のために尽力されました。任期中に、プロジェクト参加国数については 172 ヶ国・地域 (2007 年 4 月) から 183 ヶ国・地域 (2014 年 3 月) に、またデータ公開国数についても 30 ヶ国・地域 (2007 年 4 月) から 118 ヶ国・地域 (2014 年 3 月) へ増加し、プロジェクトの実施が進展しました。加えて各機関との連携が強化されました。彼の飽くなき努力なくしては、プロジェクトのこのような成功は無かったと考えます。

皆様方と緊密な関係を築くことを嬉しく思い、チュン委員長のご指導のもとで全力を尽くす所存です。地球地図の未来のために、皆様方が福島氏に授けたものと同じご支援とご助言を宜しくお願いいたします。

地球地図公開と地球地図プロジェクトへの参加

現在 167 カ国 / 16 地域が地球地図プロジェクトに参加し、110 カ国 / 8 地域 (うち Ver.2 を公開しているのは 72 カ国 / 4 地域) の地球地図が公開されています。

メール配信等のお知らせ

メール配信・停止ご希望の方は、氏名・住所・メールアドレスを sec@iscgm.org までお知らせください。

地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2014 年

- ・ 8 月 5 日、国連本部、ニューヨーク、米国
第 21 回地球地図国際運営委員会 (ISCGM) 会合
議事概要案は ISCGM ホームページでご覧ください
(<http://www.iscgm.org/>)
- ・ 8 月 6 日～8 日、ニューヨーク、米国
第 4 回地球規模の地理空間情報管理に関する
国連専門家委員会 (UNCE-GGIM)
- ・ 11 月 10 日～12 日、バリ、インドネシア
第 3 回国連地球規模の地理空間情報管理に関する
アジア太平洋地域委員会総会
(UN-GGIM-AP)

2015 年

- ・ 3 月 14 日～18 日、仙台、日本
第 3 回国連防災世界会議
- ・ 5 月 17 日～21 日、ソフィア、ブルガリア
国際測量者連盟ワーキングウィーク 2015
- ・ 8 月 23 日～28 日、リオデジャネイロ、ブラジル
第 27 回国際地図学会議



NEWSLETTER は地球地図情報誌として、世界中の地理空間情報当局や地球地図データ利用者など 1,200 名以上の多数の方々に配布されています。記事の投稿、配布の希望、関連する情報などお待ちしております。本誌の記事は、原文をそのまま掲載してあります。

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院内

Tel: 029-864-6910 Fax: 029-864-8087

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: sec@iscgm.org